

日本ユニシス株式会社

2010年3月期第3四半期決算説明会（2010年1月29日開催）

主な質疑応答

ご理解いただきやすいよう表現を変更している箇所があります。

【2010年3月期第3四半期実績について】

Q：前年同期比での大幅な売上減少の要因を教えてください。

A：製品販売やシステムサービスなどフロー型の落込みが大きかった。システムサービスにおいては需要の減退にともない中小型案件が落ち込んだほか、不採算案件を抑制し一定の利益率を確保しようという審査体制強化等の取り組みが結果的に逆風となった面もある。

Q：営業利益の減少についてはどのように分析しているのか？

A：売上の減少に対してコスト削減が追いつかなかったことが主要因である。また、注力しているICTサービス事業においてアクティビティや受注件数は増加しているものの、新サービスにリソースを移行したことで先行費用が発生したことも一因である。

Q：足元で不採算案件はあるか？もしあれば、通期での見通し金額を教えてください。

A：下期に入ってシステムサービスの不採算案件は発生していない。また、4Qでも発生しないと考えている。3Qまでの実績は上期に発生した1.6億円であり、案件管理がしっかりしてきたため足元の不採算案件はない。

Q：3Qでシステムサービスの利益率が低下している。不採算案件はないとのことだが、売上の減少が原因なのか、それとも他の要因があるのか？

A：不採算ではないが低利益率の大型案件を計上（09.3期からの工事進行基準適用となる以前に受注した案件のため今回一括計上）したことに加え、売上の減少にともないシステムエンジニアの稼働率がやや低下した。システムエンジニアのコストは変動費ではなく固定費となるため、売上の減少に対してコスト削減が追いつかず利益率が低下した。

【2010年3月期通期及び来期の見通しについて】

Q：今期の業績予想を下方修正しているが、昨年に比べて予想の確度は上昇していると考えてよいのか？

A：過去に下方修正をしたこともあり、これ以上の下方修正はマーケットをミスリーディングするということになるため、今回の見通しについては個別案件ごとに相当精査している。従って、むしろこれを最低ラインとして数値を出しており、現在想定できるリスクは織り込んだものと考えていただきたい。

Q：今期の特別損失はどの程度になる見通しなのか？

A：10億円を見込んでいる。投資有価証券の減損損失で6.5億円程度を見込んでいるほか、ソフトウェアの廃却損が2億円程度発生する。これらが主要因である。

Q：4Qの受注高は前年同期比でプラスになる見通しのようだが、売上区分やマーケット別ではどのあたりが伸びるのか？

A：売上区分ではアウトソーシング、マーケット別では金融の伸びが大きいと見込んでいる。

Q：今期の下方修正は環境要因も大きいと思うが、来期の業績イメージを教えてください。

A：現時点では顧客の来期IT投資予算も固まっていないため数字では申し上げられないが、弊社はアウトソーシングなどストック型事業の拡大に向けた転換期であることもあり、極端な売上増加は見込んでいないものの、引き続きコスト削減に取り組むことで利益面での改善は図っていけるものと考えている。

Q：ICT新サービスの売上総利益は3Q累計でマイナス14億円ということだが、来期はどうか？

A：2009年12月末時点での受注152件が来期以降の売上になってくるとともに、受注は毎月増加していることもあり、来期はICT新サービスでの増収が見込める。今期3Q累計のマイナス14億円は、大きな投資というよりも技術者に関連する費用としてのコンスタントな支出であり、その数値自身は来期もほぼ変わらない。売上が拡大することによって概ね費用をカバーできる構造になっているため、来期は売上総利益でも改善を見込んでいる。

以上

(注)本資料で記述しております業績見通し等の予測数値は、現時点での入手可能な情報による判断および仮定に基づき算定しており、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、実際の業績は本資料における見通しと大きく異なる可能性があることをご承知おきください。また、本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。